



就業体験 高校時代から

県立校9割導入 普通科も 「進学先、仕事考える機会」



大学生らが就職活動の一環として行う企業でのインターンシップ(就業体験)が、山梨県内の高校生に広がっている。県立高校9校のうちの割合が取り組み、職業系高校だけでなく、進学希望が多いとされる普通科高校の生徒も積極的に参加する。学校側は在学時の体験が就業意欲の向上や、進学進路後の目標設定につながるを期待し、生徒は手応えを口にする。協力する企業側も「人材確保が難しい状況で、会社を知ってもらえる機会になる」と話し、メリットを感じているようだ。

〈清水悠希〉

今月中旬、南アルプス市下インターンシップ用に用意された簡易ロボットを組み立てた。甲斐ダイアログシステムで、甲府工高の生徒3人は社員が見守る中、伊赤池社長は「授業ではな

企業の実情に応え、オーダーメイドの自動機械を製造する同社。製造業の人手不足が深刻になる状況で「高校生が会社を知り、興味を持つきっかけになればいい」(塩蓋悦男社長)と数年前から受け入れを始めた。

県教委高校教育課によると、インターンシップは2016年度、県立高校26校のうち普通科高を含めた26校で実施。同年度は各業種のべ888事業所が協力し、生徒2478人が参加した。生徒数が減少傾向にある中で、06年度の1703人の約1.4倍に

社員が見守る中、製作に励む甲府工高の生徒

南アルプス市下市之瀬

増えた。

当初は職業系高が多かったが、近年は普通科高も積極的に参加し、希望者だけでなく全生徒を対象にする学校も。2年時に全員が体験してきた白根、山梨商高に加え、塩山高は昨年度から商業科の2年生全員、本年度から普通科の2年生全員を対象とした。

塩山高進路指導主任の日原弘美教諭は「生徒があいさつや服装、礼儀作法に気を配るようになり、職業への憧れや目的に触れる効果もある」と指摘。「進学を希望する生徒も学部を選定など進路を考える上で有効な体験になっている」と話す。

同普通科2年の奥秋翔さんは関心のある業種が見つからない中、宅配業者で就労を体験した。「目の前で農家の人たちが喜んでくれた。人として接する仕事にやりがいを感じた」と話す。

日原教諭によると、個人情報や報を扱う職場など一部の企業では受け入れがないものの、約80社が協力し、「地域に職場があることを知ってもらえる」と前向きに受け止めているという。「生徒、地域の企業にとってメリットのある取り組み。今後も続けていきたい」と話している。

県立の簡易ロボット